

イチジク

1 植え付け

適地は、1月の平均気温が3℃以上の温暖な場所が栽培に適しています。耐寒性は成木でマイナス9℃が限界で、これ以下の低温になると枯れることがあります。

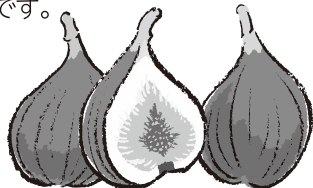
単為結果性があるので、1品種を植えるだけで結実します。直径20cm～30cm程度の鉢に赤玉土6・腐葉土3・土1の割合で植え込みます。アルカリ性土壌が栽培に適しているので、JAファーム粒状苦土石灰を施し、植え付け時期は3月が適期。植え付けて2年目から収穫できます。収穫できるようになったら、1年おきに植え替えをします。

イチジクの栽培カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
主な管理作業	剪定		植え付け		芽かき	新梢誘引	摘心					
									収穫			
				鉢を屋外に						鉢を屋内に		
						施肥		礼肥			元肥	
	水やり (7～10日に1回)		水やり (1日1回)				水やり (1日に2回以上)		水やり			

2 施肥と水やり

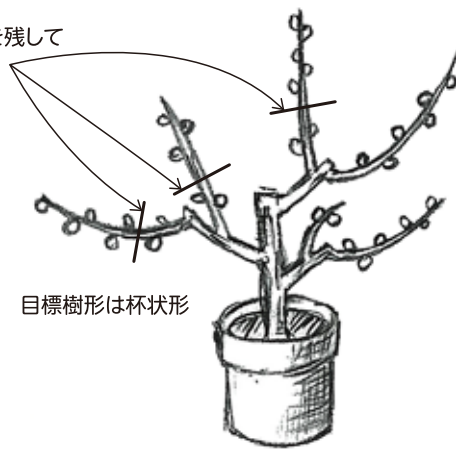
肥料は、植え付け1ヶ月後と毎年夏と秋にJAファーム果樹専用肥料(有機55%)を鉢の周りに施します。鉢土の表面が乾いたらかん水をします。耐湿性が弱いので過湿にならないように注意が必要です。葉が大きく水切れを起こしやすいので夏季は乾きすぎにも注意が必要です。



3 整枝剪定

植え付け後は、20cm～30cmの高さで切ります。高さや方向が良い2～3本の新梢を残して他はかきとります。2年目の冬の剪定で伸びた枝を20～30cm程度に切ります。発芽後、1枝につき2～3本の新梢となるように芽かきで調整し、この新梢に果実をならせ、3年目以降は伸びた枝を2～3節を残して切り、ここから発生する新梢を芽かきで1本にします。この剪定の仕方では夏季は収穫できません。

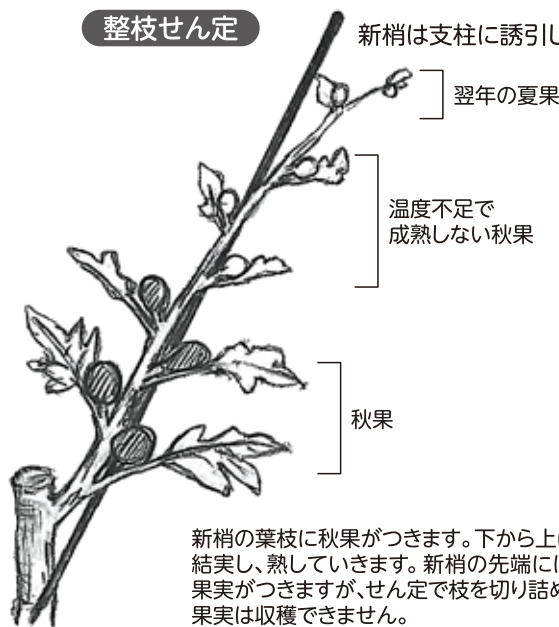
2～4芽を残して
切り返す



目標樹形は杯状形

整枝せん定

新梢は支柱に誘引します



翌年の夏果

温度不足で
成熟しない秋果

秋果

新梢の葉枝に秋果がつかます。下から上に順番に結実し、熟していきます。新梢の先端には翌年の果実がつかますが、せん定で枝を切り詰めるので、果実は収穫できません。

4 芽かき、誘引、摘心

発芽したら1枝に1本の新梢となるよう芽かきで調整し、新梢は生育に合わせた支柱で誘引します。新梢が伸びすぎた場合は10節目あたりで摘心します。

5 結実管理

1節につき1果をならせることができますが、果実肥大が悪い場合は1新梢につき1～2果に調整します。

6 発生しやすい病害虫

比較的病害虫に強い果樹ですが、カミキリムシには対策が必要です。カミキリムシは幼虫が枝や幹の中に入って中を食べ、枝や木全体を枯らしてしまいます。4月以降、株元におがくずのようなものがあれば、それはカミキリムシの幼虫の糞です。近くの枝や幹に穴が空いているので中へ殺虫剤を吹きかけます。

7 イチジクの育て方のポイント

カミキリムシの対策を施しながら、日当たりの良い場所で育てることがポイントです。日当たりのよくない場所で育ててしまうと、木が生長せず実もおいしくなりません。亜熱帯が原産の植物なので寒さに弱い傾向があり、栽培をはじめてから5～6年の間、冬季は室内に入れた方が安心です。

科名	クワ科
原産地	小アジアまたはアラビア南部
形態	低木・高木

制作
JAファーム 専門部会
(無断転載禁止)